

令和 3 年度 学校評価報告書

園名 三田市立母子幼稚園

1 教育目標

一ふるさとを愛し、よく考え、心豊かにたくましく生きる園児の育成—
「やってみよう たのしもう つづけてみよう」

2 今年度の重点目標

- 安心できる場の創造
- 少人数の特性を生かした保育の創造
- 人と関わる力を育てる保育の創造

3 総合的な自己評価

少人数保育のよさを生かしていくようにした。まず一人一人の園児が園に慣れ親しみ、教師との信頼関係を構築できるように努め、安心感をもって活動できるように援助した。また個々に興味のあることを大切に、それを基盤としながら心を動かす直接体験と感情体験を重ねられるようにすることで、しだいに安定感をもって生き生きと自分らしさを発揮しつつ意欲的な姿が見られるようになってきている。

4 総合的な学校関係者評価

幼児一人一人の個性や興味に沿いながら、母子の大自然の中での活動を工夫していた。地域の身近な自然に関わりながら、その中で育つ姿は、母子の理想の幼児教育である。また近隣園との交流で豊かな人的経験をするための土台づくりもできたようだ。今後もそのような母子ならではの幼児教育を進めていけるよう引き続きお願いしたい。地域としてさらに協力していきたい。

5 評価結果

自己評価				学校関係者評価
分野・領域	評価項目(取組内容)	評価結果及び分析	改善の方策	学校関係者評価委員会の意見
教育課程	○幼児教育の視点をもとに少人数のよさを生かした援助の在り方を探り、母子ならではの保育を創造する。	・小学校の教育プランの大筋を幼児期から方向性を一本化し発達段階に沿って援助の仕方を工夫した。	・めざす子供像を小学校と統一する為、母子教育プランを教師がさらに深く理解していく。	・母子の教育は昔から幼稚園を含め、小学校6年生までの8年間を通して行われている。そのことを今一度再認識し、幼小一つになって考えることが大切だ。幼稚園と小学校の教育方法は、年齢に応じて異なっていることは承知だが、小学校と幼稚園でそだてたものを統一させ、教育の方向性を1つにしながら大いに連携をとり進めてほしい。また豊かな母子の地域環境を引き続き教育活動に生かして行ってほしい。
	○遊びや生活の中で、幼児の思いを大切に、興味関心をもったり試したりする姿を支え、幼児の主体性を育む。	・園児一人一人の興味を捉え、それを大切にしながら、多様な体験ができるよう環境を再構成しつつ援助した。	・幼児の興味関心は偏ってしまうので、教師が広い視野・知識をもつように努める。	
	○地域や身近な自然との関わりの中で、興味や関心を高め、遊びや生活を豊かにする。	・地域の自然の中に出向くことで様々な発見をしながら、興味をもったり、感じたりする姿が見られた。	・地域の自然環境は奥深い。教師自らが母子の自然環境への探求を進めていく。	
	○小学生、地域の方々、近隣園の友達等、様々な人と触れ合う活動を通して、人と関わる力の基礎を培う。	・小学生と日常的に関わりながら共に生活することができた。	・近隣園との交流について人との体験が充実するよう回数や内容を検討していきたい。	
保健管理	○自分の健康を維持する為の基本的な生活習慣を身につける。	・手洗いうがい等、基本的な生活習慣は定着してきている。	・定着した生活習慣を来年度にも継続していく。	・自分のことが自分でできることは望ましい。引き続き指導に努めてほしい。
安全管理	○様々な災害を想定した教育を計画・実施し、幼児の安全意識を高める。	・避難訓練に参加しその機会を逃さず年齢に応じた形で丁寧に伝えていった。	・繰り返し伝えることで身を守る力を身につけていく。	・様々な避難訓練が年間を通じて実施され、園児も防災について知るよい機会となったのではないかと。
人権教育	○幼児の体験や経験を通し、自尊感情を育むとともに、相手を思いやる心を育てる保育を創造する。	・大切にされているという実感が基盤となる。近隣園との交流で温かい心を通わせ、その体験から大切にされる心地よさを味わった。	・教師がより人権感覚を豊かにし、人との触れ合いの姿から、優しさや思いやりの芽を引き出していくようにする。	・幼児期は体験から人権感覚が育まれる。日頃の園生活の中で先生や友達に優しく関わってもらった経験は互いに思いやる人権感覚を育む。今後も日々の人権保育を続けてほしい。
子育て支援	○園庭開放を実施する。小学校6年生までが参加するので誰もが充実感を持てるよう内容を検討し、楽しい関わりの中となるように工夫していくようにする。	・園庭開放の内容を具体的に予告し、期待が持てるようにした。地域の方々に講師をお願いし、様々な人と親しめるように内容を充実させた。	・園庭開放、預かり保育等子育て支援事業がより一層充実するよう来年も内容を検討していきたい。	・園庭開放では地域全体の縦の関係がより充実する場である。今後も様々な工夫しながら継続して計画実施して行ってほしい。

6 学校自己評価の実施状況について

時期	内容
6月	オープンスクール参観とアンケート
7月	七夕交流会、一輪車発表会への参加と聞き取り
10月	運動会への参観とアンケート
11月	母子芸術のつどいへの参観とアンケート
1月	幼稚園教育・家庭生活についての保護者アンケート
2月	保護者へのアンケート結果集約公表と補足説明実施
3月	職員による学校評価

7 学校関係者評価委員会の活動について

期日	内容
6月	第1回学校関係者評価委員会(年間予定について)
10月	運動会への参観と聞き取りによる評価
10月	第2回学校地域運営協議会(今後の仕事・予定について)
11月	母子芸術のつどいへの参観と聞き取りによる評価
12月	第3回学校関係者評価委員会(今後の行・事予定について)
3月	第4回学校関係者評価委員会(学校評価・来年度に向けて)

8 学校評価の公表について

時期	手段	内容	添付
2月	保護者アンケート	保護者	
3月	育友会・全体会	上記の結果をもとに、学校の考え方を示すとともに保護者と次年度の課題を共有する。	

※公表の具体がわかる印刷物等がある場合には添付願います。

※ 行は、適宜加除願います。